

チェルノブイリ34年・福島9年救援キャンペーン

豊田直巳 講演会

チェルノブイリから福島

原発災害をどう記憶し、心に残し、震災後をどう生きるか

原発事故の報道は減りました。でも、その被害が減ったわけではありません。

「除染」の報道は消えました。でも、「除染」は続いています、作業員の被ばくという犠牲を強いながら。

オリンピックの話が「復興」と重ねられて語られます。でも、放射能汚染が消えたわけではありません。

次の世代に、その次の世代に、さらに次の世代にまで…。その次の世代に、私たちは何を語れるのでしょうか……。

少なくとも私個人は新刊『百年後を生きる子どもたちへ』（農文協）を、

新作映画『サマシヨール 遺言 第六章』等も使って語っていきたいと思います。

豊田直巳



2013年4月 飯館村からの避難者が暮らす伊達東仮設住宅。



上:2015年12月 背後の原発推進PRの看板の撤去に抗議する大沼勇治・せりなさん夫婦。小学生だった大沼さんが考案した「原子力明るい未来のエネルギー」も、負の記録・記憶として残すべきと。

下:2011年2月 ウクライナ チェルノブイリ原発4号機前で。



撮影：豊田直巳

2020年
4月19日 日 18:30開場
19:00開演

ココネリホール (練馬区立区民・産業プラザ3F)

西武池袋線・西武有楽町線・都営地下鉄大江戸線「練馬駅」北口徒歩1分

入場料 ● 予約1000円 当日1300円(全席自由) 定員300名

※予約受付は4/16(木)午後3時まで。

定員になり次第お申し込みを締め切ります。

豊田直巳(とよだ なおみ)プロフィール

フォトジャーナリスト、ドキュメンタリー映画監督・制作

JVJA(日本ビジュアルジャーナリスト協会)会員

平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞受賞(2003年)

著書「それでも「ふるさと」」は第66回産経児童出版文

化賞を受賞(2019年5月)。東日本大震災の福島第1

原発事故で一時全村避難となった福島県飯館村に震災直後から現地入りし、その

後も同村に通い続け、避難指示解除までの約6年を記録した写真絵本の3部作。

●支援活動の報告

黒部信一 (「未来の福島こども基金」代表、小児科医)

佐々木真理 (「チェルノブイリ子ども基金」事務局長)



問合せ・申し込み先 ● チェルノブイリ子ども基金

主催 ● チェルノブイリ子ども基金 / 未来の福島こども基金

〒177-0041 東京都練馬区石神井町 3-16-15-408 Tel/Fax:03-6767-8808 E-mail:chernobyl1986@jcom.zaq.ne.jp

☆この催しの収益は、チェルノブイリと福島の原発事故により被災した子どもたちの救援金にあてられます。